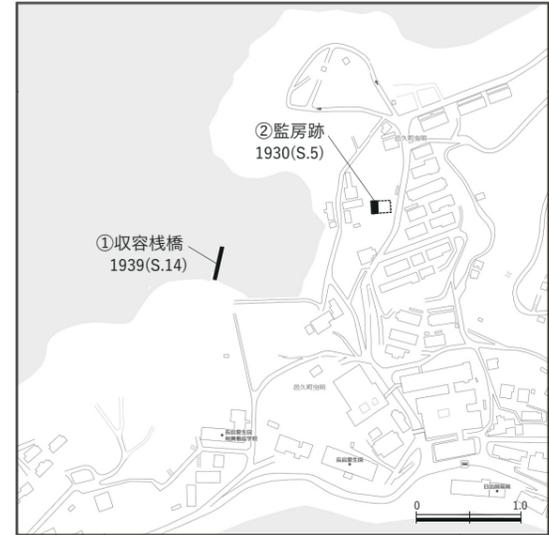
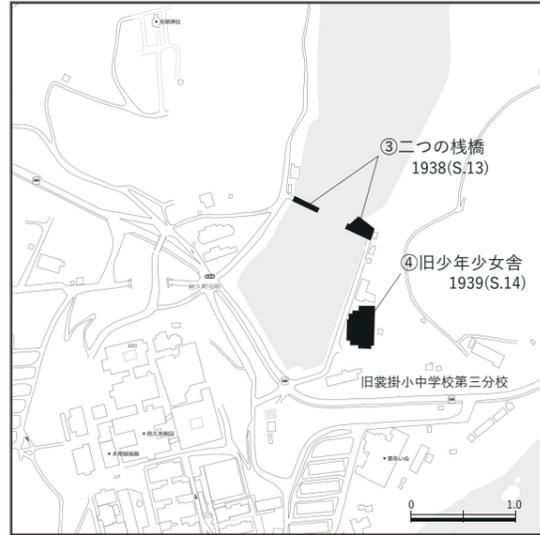


令和 2 年度

「長島のハンセン病療養所群」を構成する歴史的建造物等の修復保存・整備活用に係る基礎的調査



調査対象資産位置図

光明園関連施設

愛生園関連施設

二つの棧橋



調査のポイント
①向かい合う二つの棧橋を望む視点場

旧少年少女舎



調査のポイント
①「生きた家」としての間取り・増築の変遷
②「在地の仕様」と「国家の仕様」

収容棧橋



調査のポイント
①改変の履歴と廃墟としての時間の経過
②保存・活用の方向性を想定した調査

監房跡



調査のポイント
①築造当初に想定されていない荷重条件・外力
②埋められたことも含めた歴史の評価
③保存・活用の方向性を想定した調査

現場・史料収集の状況により限定的調査にとどまる

今後の保存活用の検討に必要な基礎的調査は完了

(実測図：資料 7 p.8～p.31)

令和 3 年度：休止（調査体制が整い次第詳細な検討を再開）

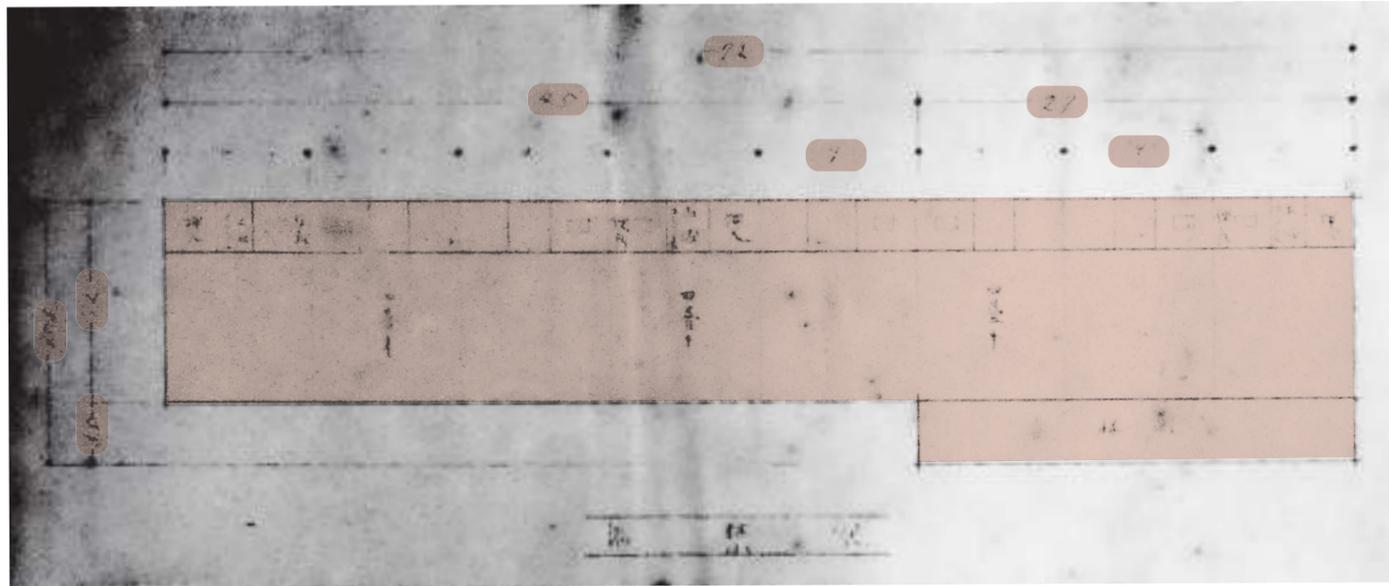
記録測量・劣化診断調査より、各部の劣化・破損状況が明らかとなり、早急な保存措置が必要な状況が明らかとなる。また、史料調査より価値の整理に寄与する当初の形態や改変の履歴が明らかとなる。一定の基礎的調査は完了（今後は保存活用の方針の具体化に伴い補足調査が必要となる。）

(調査成果：P.2～P.5(前回資料再掲))

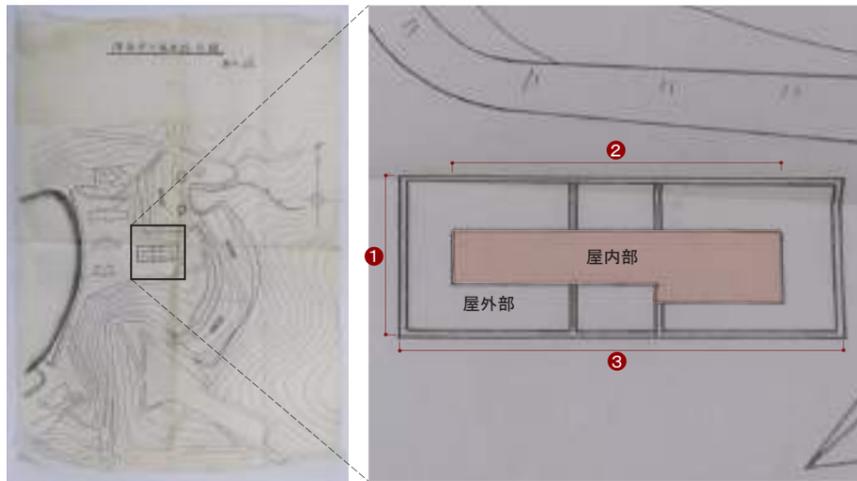
令和 3 年度：保存・活用方針の具体化（比較検討）

(検討素案：P.6～P.7)

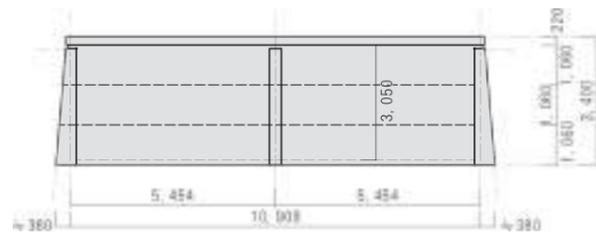
監房跡調査結果 1 (前回資料再掲)



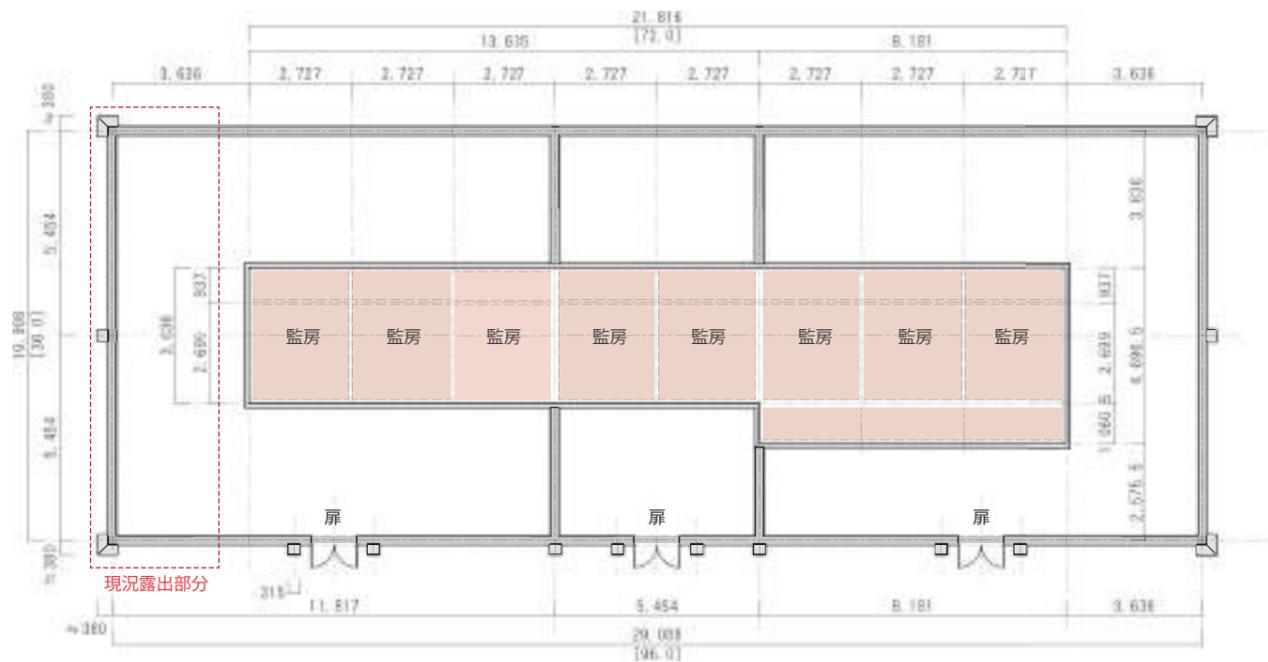
監房部平面寸法根拠



監房内、屋内 - 屋外の関係性について



監房復原立面図



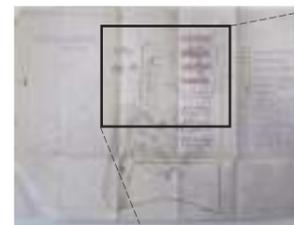
監房復原平面図



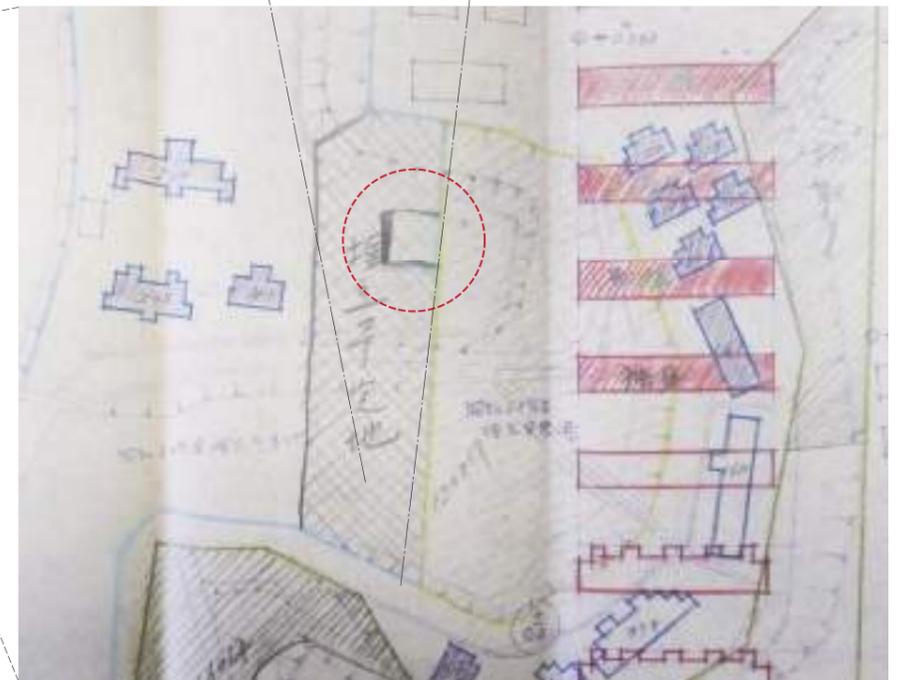
古写真1：監房俯瞰（北西より）



古写真2：監房俯瞰（南東より）



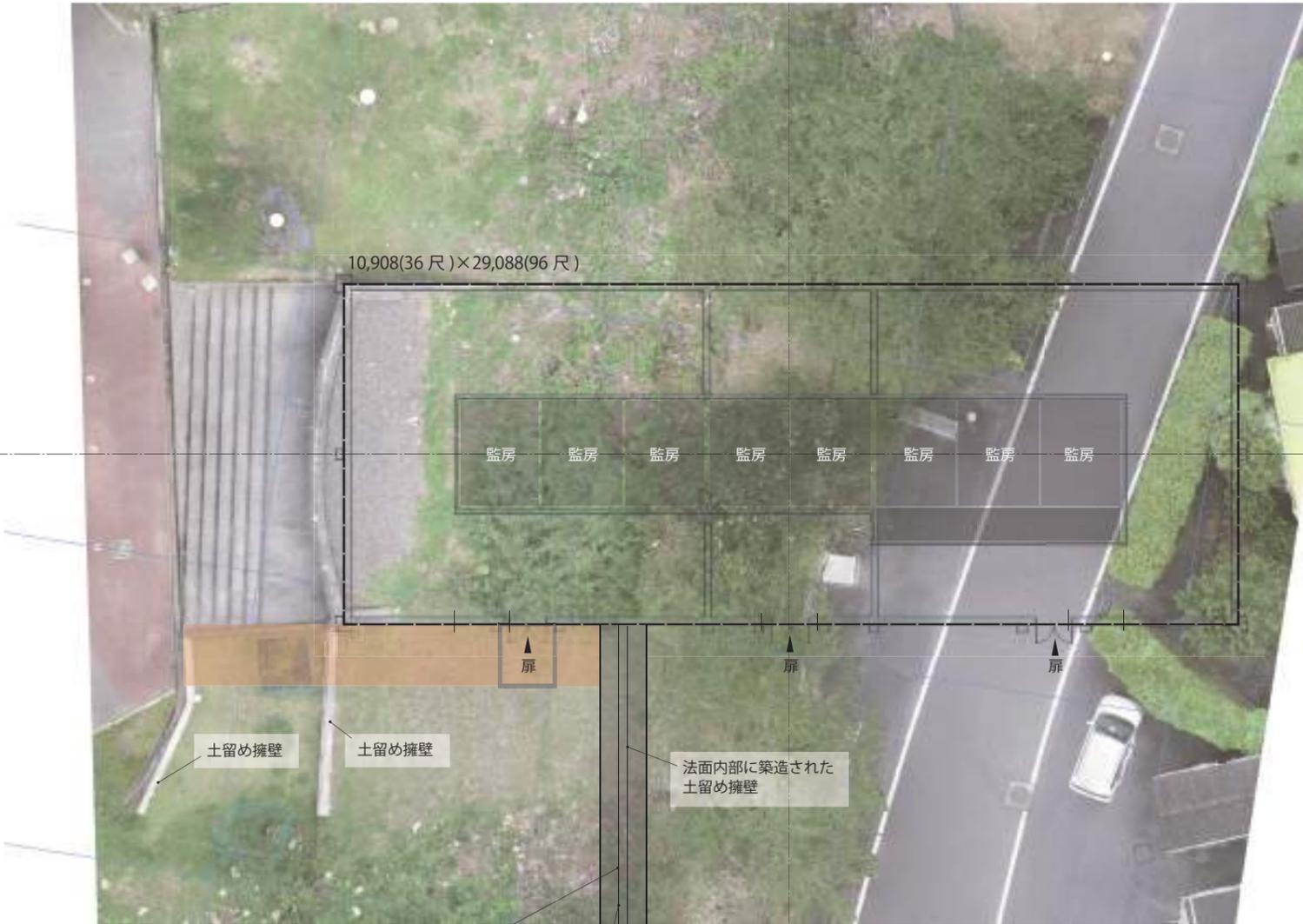
軽症患者地区整地のための造成計画



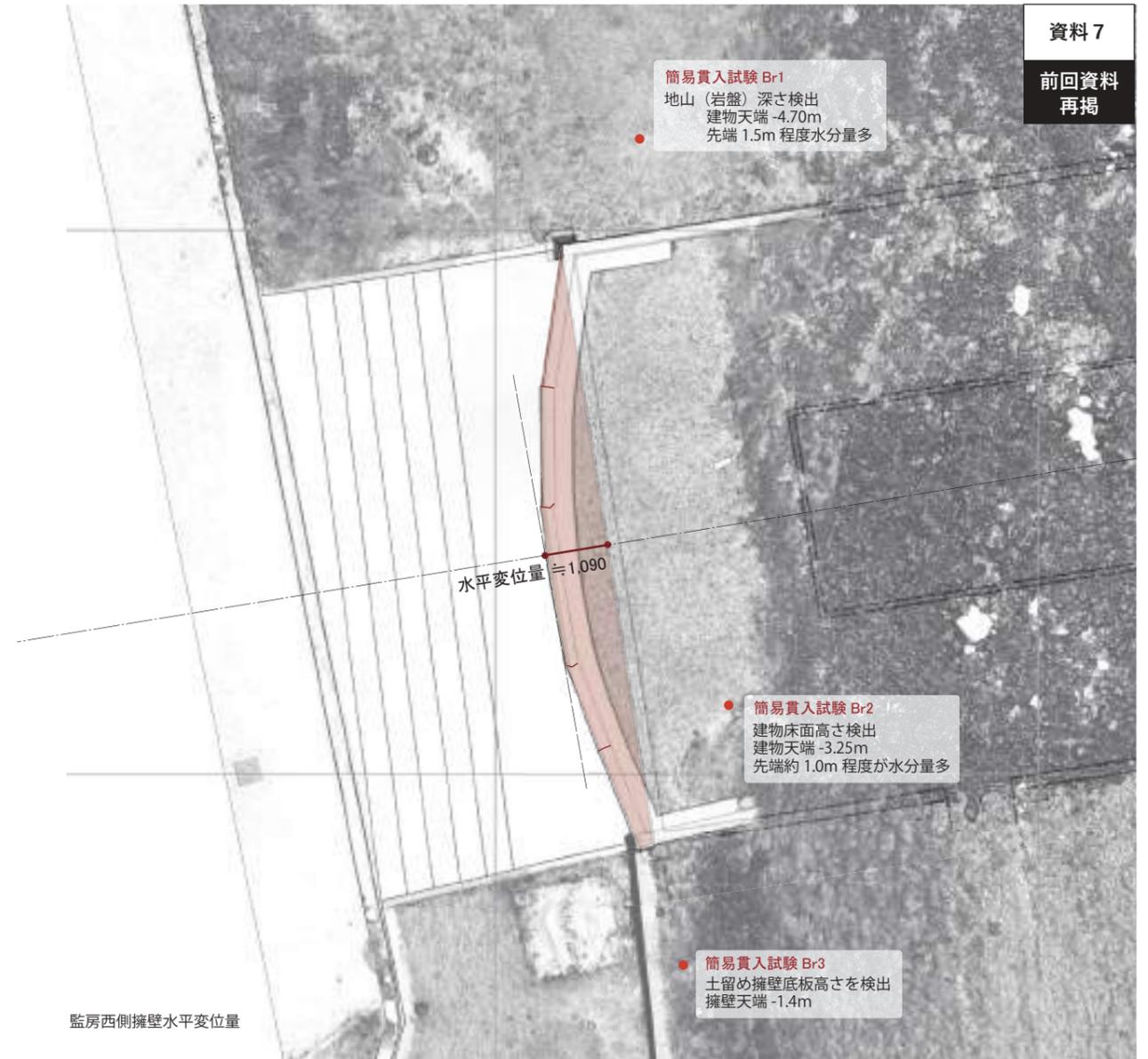
監房跡調査結果2 (前回資料再掲)

資料 7

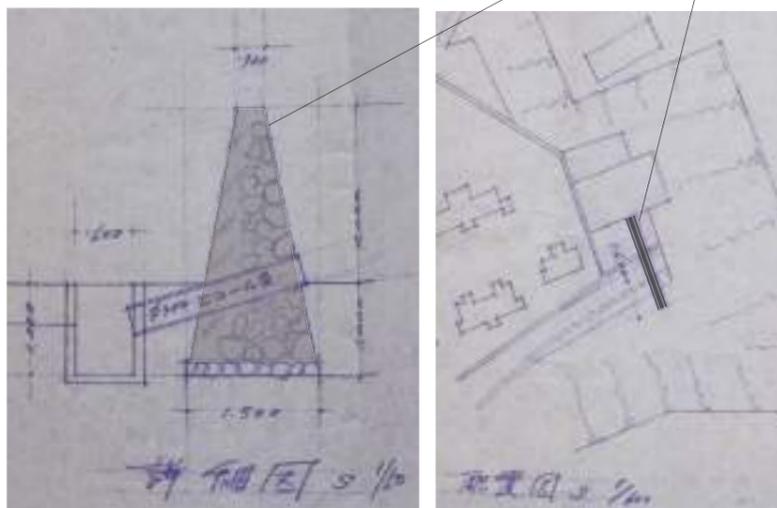
前回資料再掲



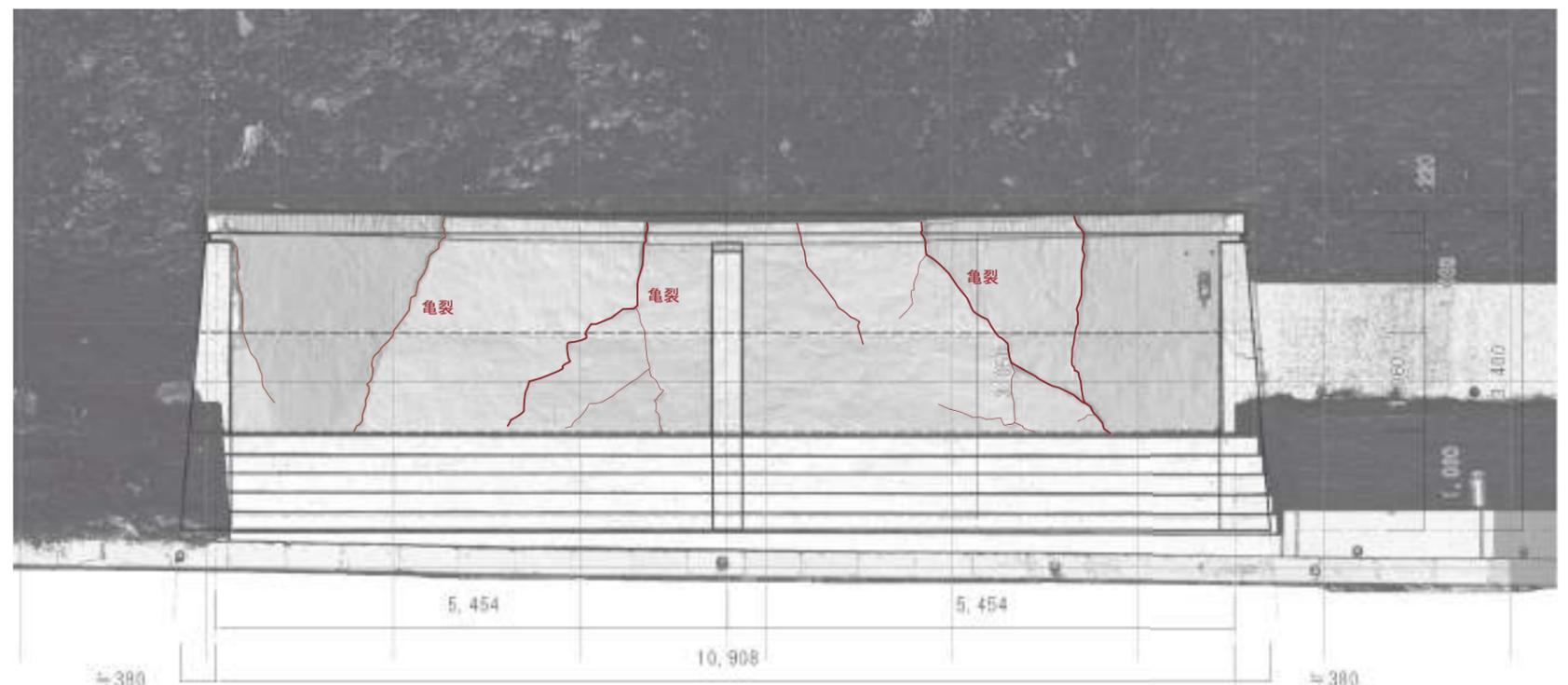
写真測量平面と復原図との重ね図



監房西側擁壁水平変位量

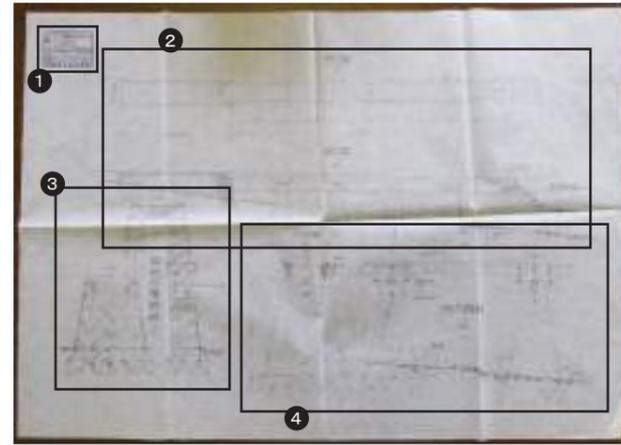
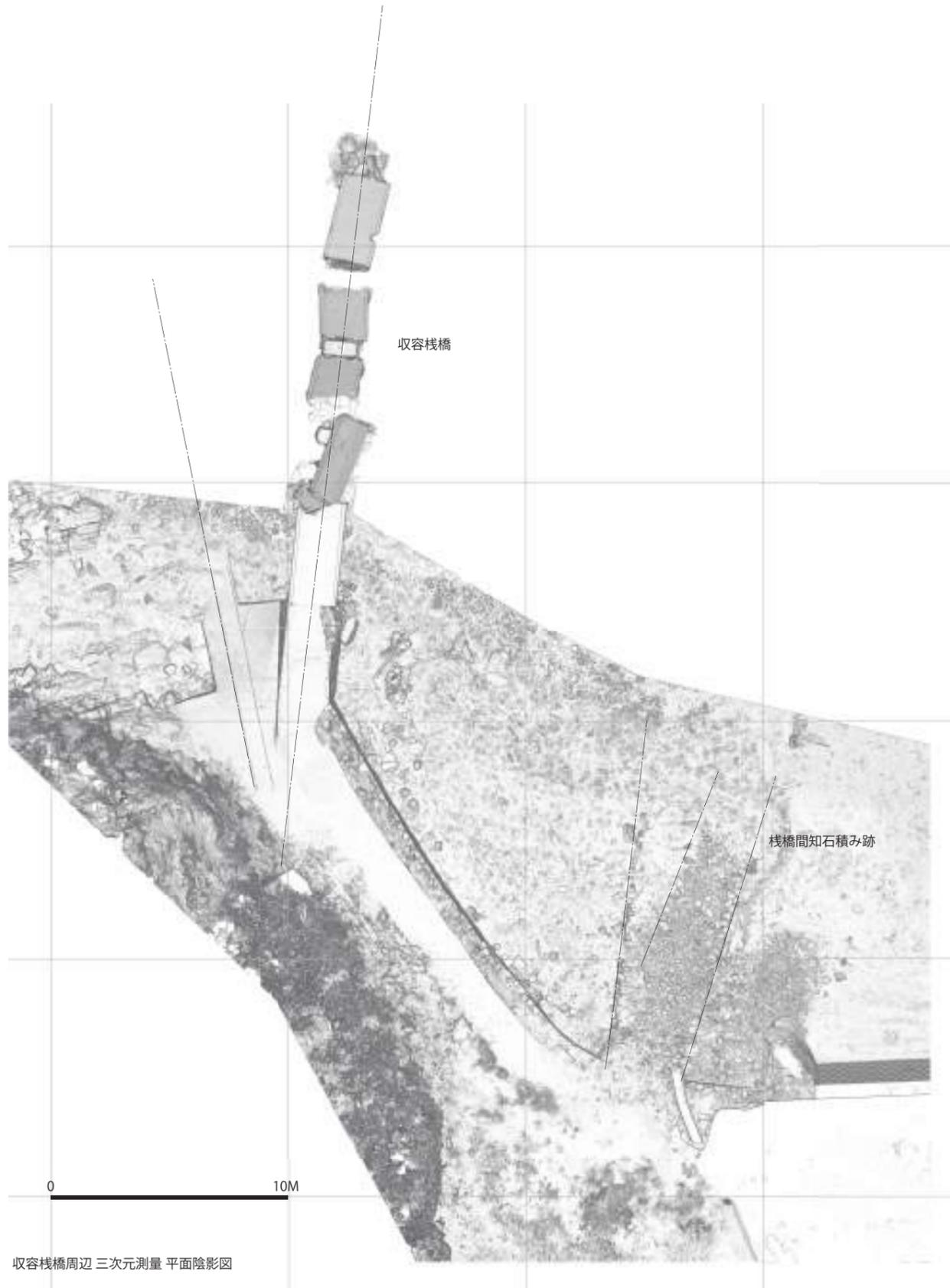


法面内部に築造された重力式擁壁：延長 16.0m、底板幅 1.5m、高さ 3.0m (根入れ 1.0m)

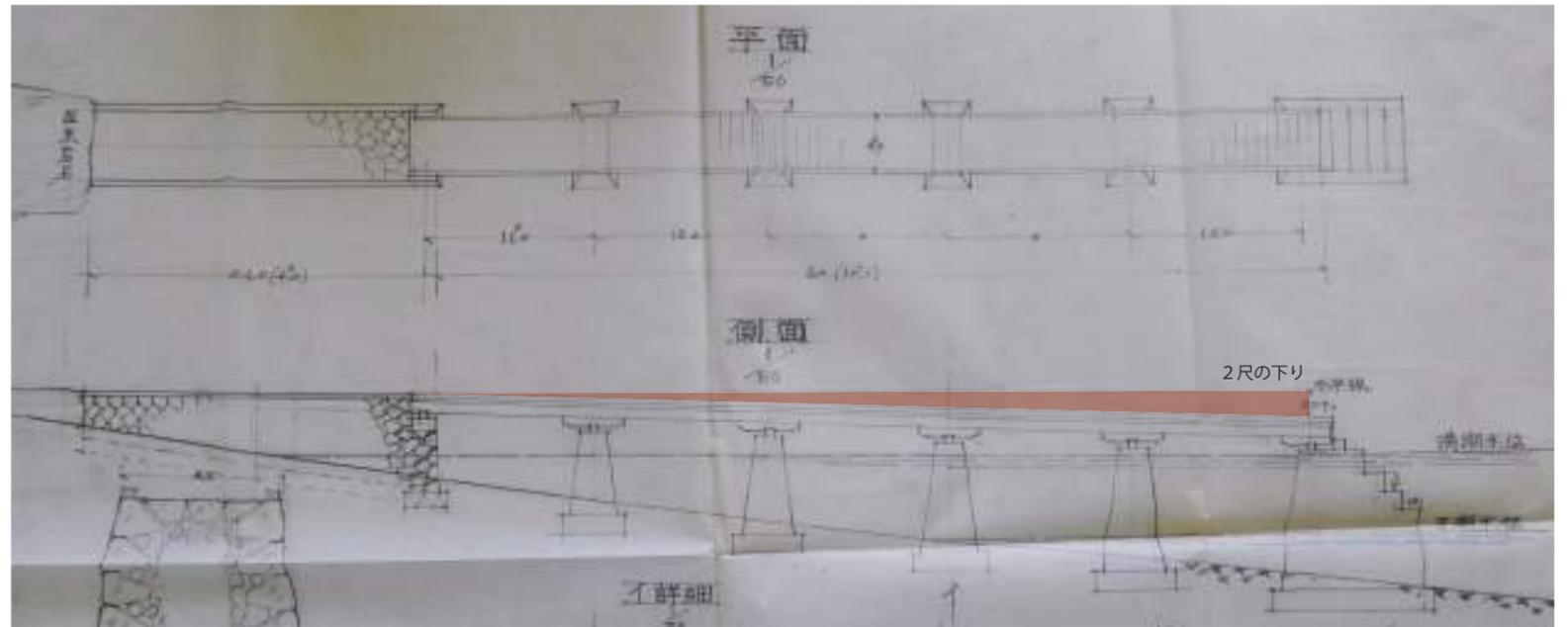


監房西側擁壁破損状況：亀裂・はらみ出し、背面土圧・水圧の影響が大きいと考えられる。

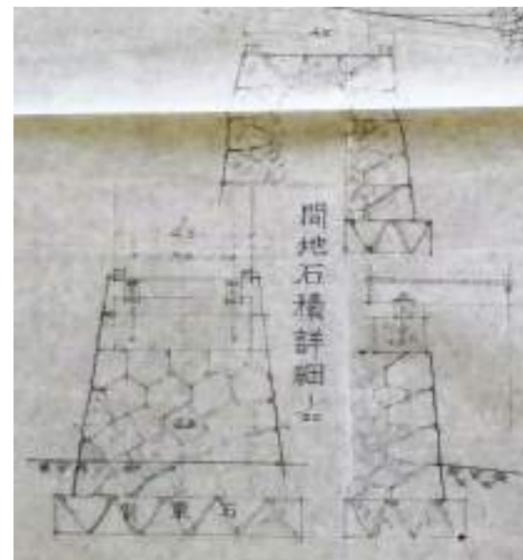
収容棧橋調査結果 1 (前回資料再掲)



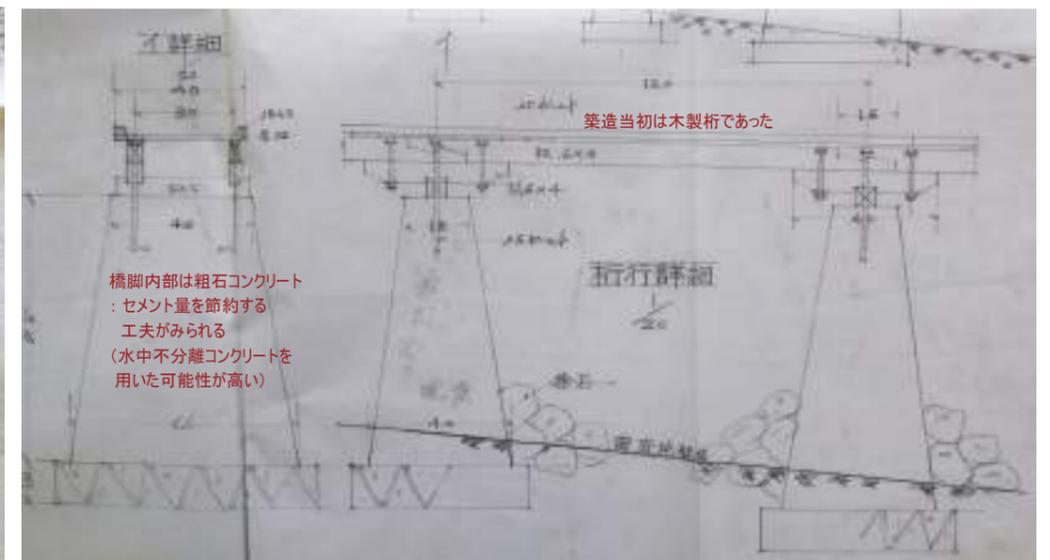
① 棧橋設計図概要



② 棧橋一般図



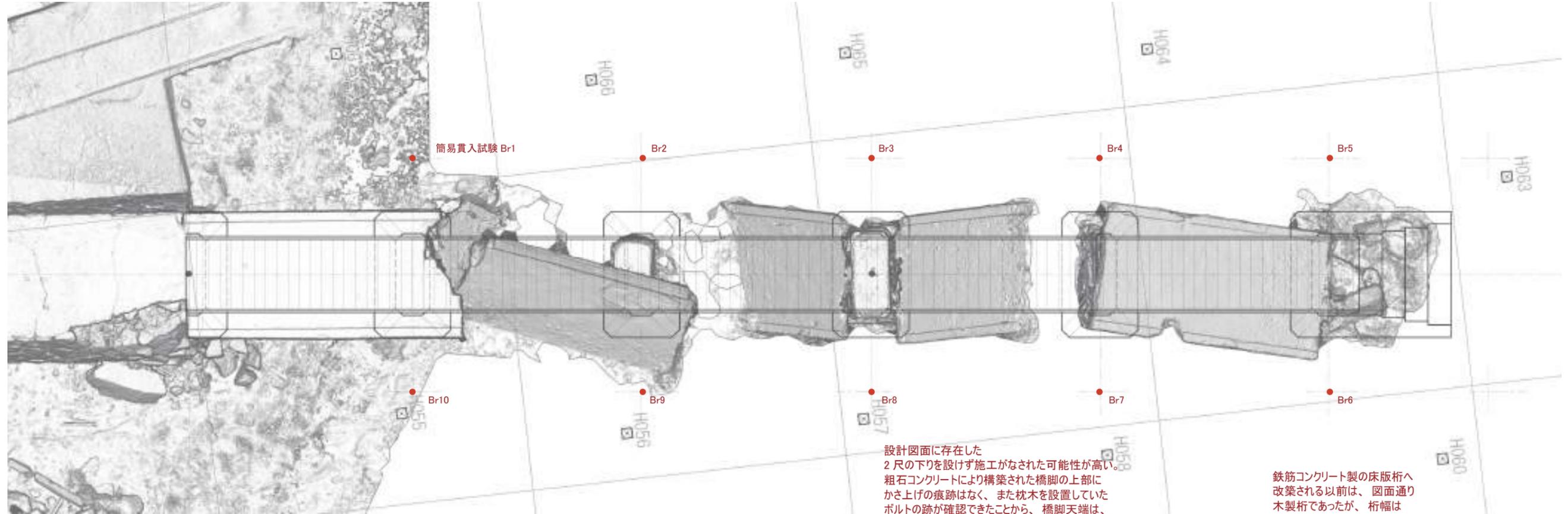
③ 橋台間知石積み



④ 棧橋橋脚詳細図

収容棧橋調査結果2 (前回資料再掲)

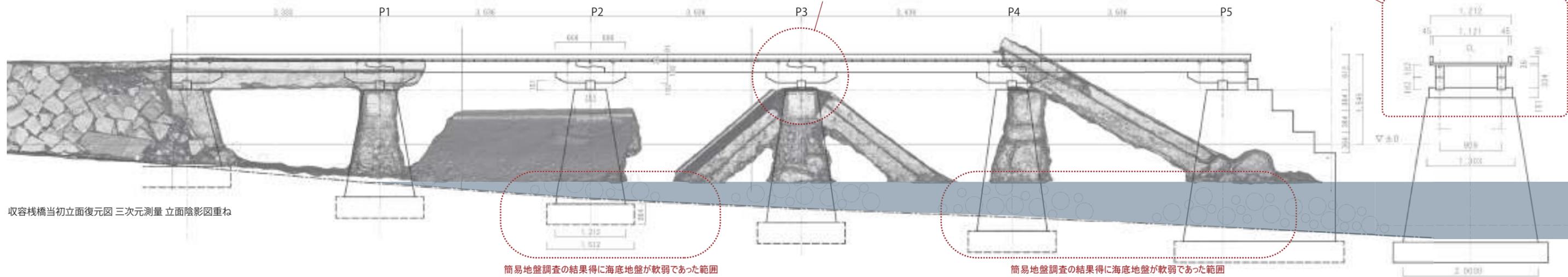
設計図面と現況との比較より、橋脚・橋台については概ね当初設計のまま竣工しているが、一部図面との相違点が認められ、変更を行っていることがわかる。



収容棧橋当初平面復元図 三次元測量 平面陰影図重ね

設計図面に存在した2尺の下りを設けず施工がなされた可能性が高い。粗石コンクリートにより構築された橋脚の上部にかさ上げの痕跡はなく、また枕木を設置していたボルトの跡が確認できたことから、橋脚天端は、当初より変わっていない可能性がたかい。

鉄筋コンクリート製の床版桁へ改築される以前は、図面通り木製桁であったが、桁幅は4尺と、現況より80cm程度狭かった。



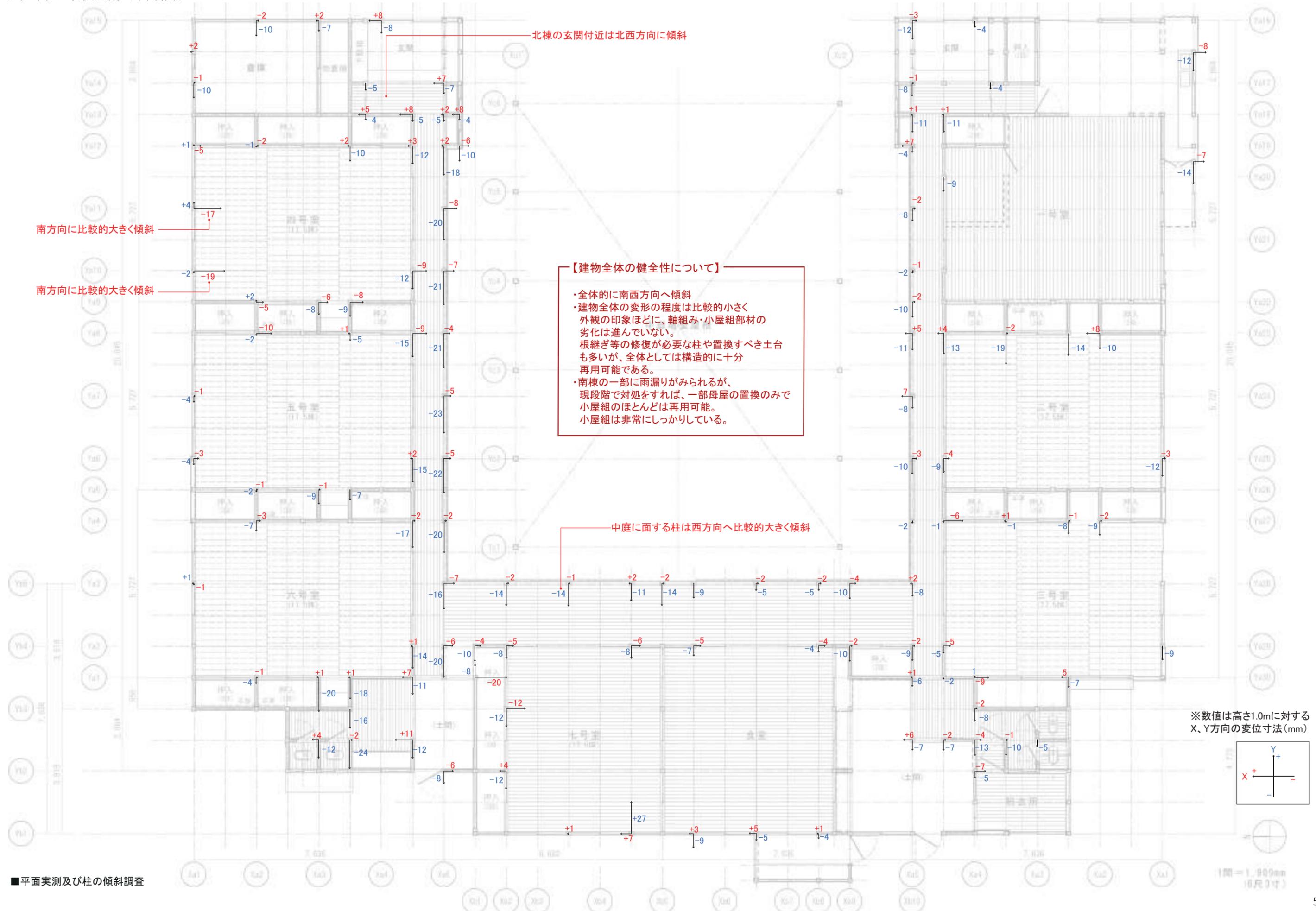
収容棧橋当初立面復元図 三次元測量 立面陰影図重ね

簡易地盤調査の結果得に海底地盤が軟弱であった範囲

簡易地盤調査の結果得に海底地盤が軟弱であった範囲



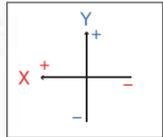
収容棧橋現況立面図 写真測量オルソ立面図

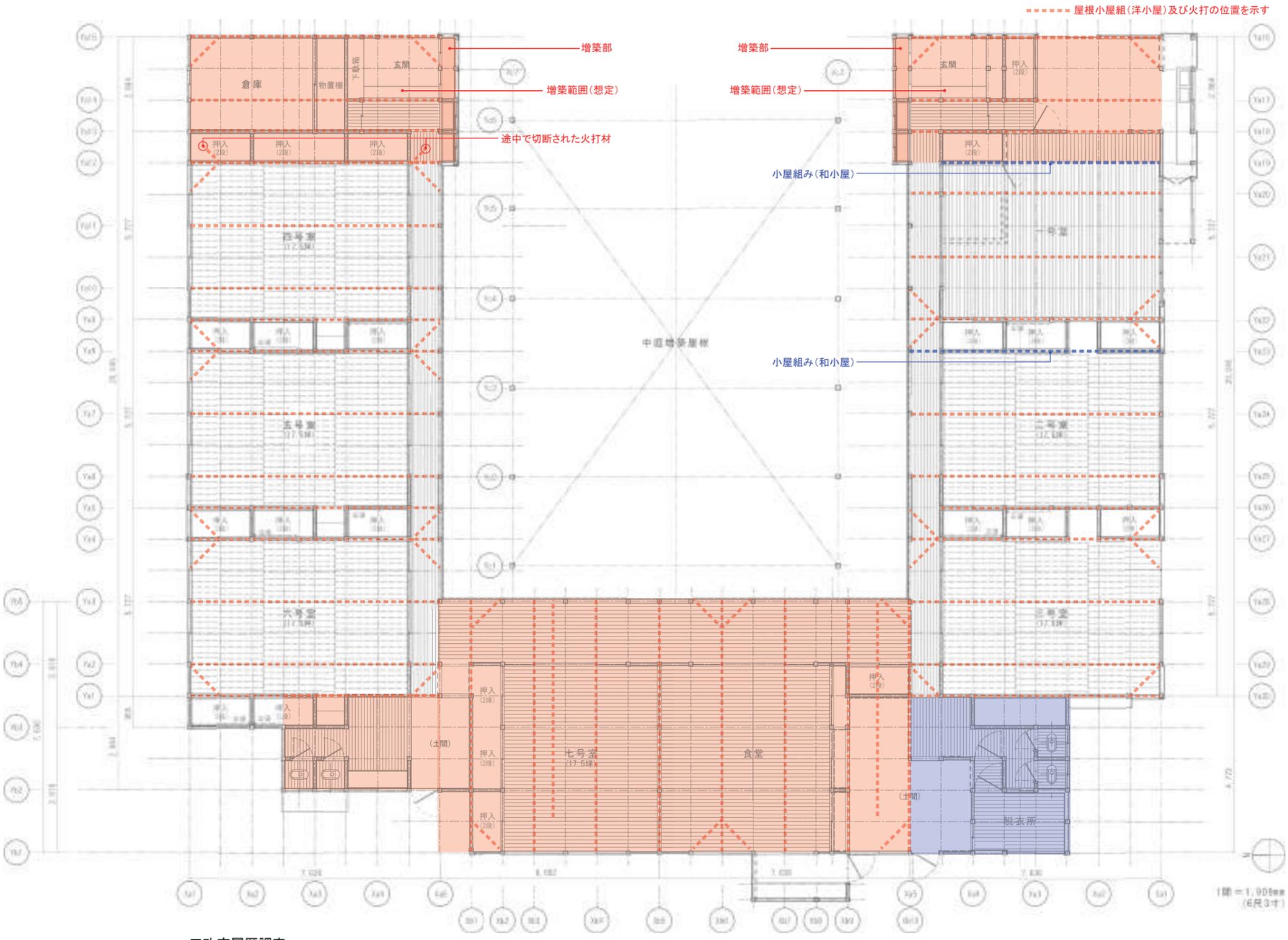


【建物全体の健全性について】

- ・全体的に南西方向へ傾斜
- ・建物全体の变形の程度は比較的小さく
外観の印象ほどに、軸組み・小屋組部材の劣化は進んでいない。
根継ぎ等の修復が必要な柱や置換すべき土台も多いが、全体としては構造的に十分
再用可能である。
- ・南棟の一部に雨漏りがみられるが、
現段階で対処をすれば、一部母屋の置換のみで
小屋組のほとんどは再用可能。
小屋組は非常にしっかりしている。

※数値は高さ1.0mに対する
X、Y方向の変位寸法 (mm)





■ 改変履歴調査



前身建物：一文字型平面

旧少女少女舎（双葉寮）S14年5月



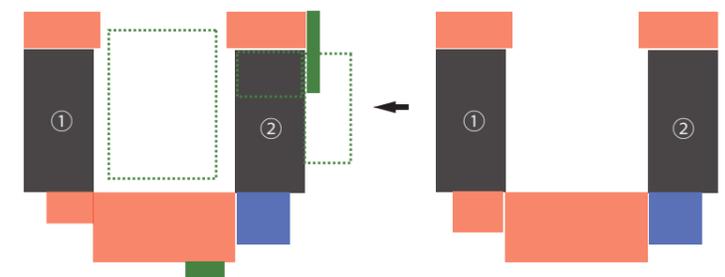
現況建物：コの字型平面

増改築履歴調査より想定される、一文字型平面の旧建物を二分割にし転用のうえ、コの字型平面へ再構築した可能性がたかい。(現段階では仮説) * 今後精査が必要。

(1) 前身建物：一文字型平面

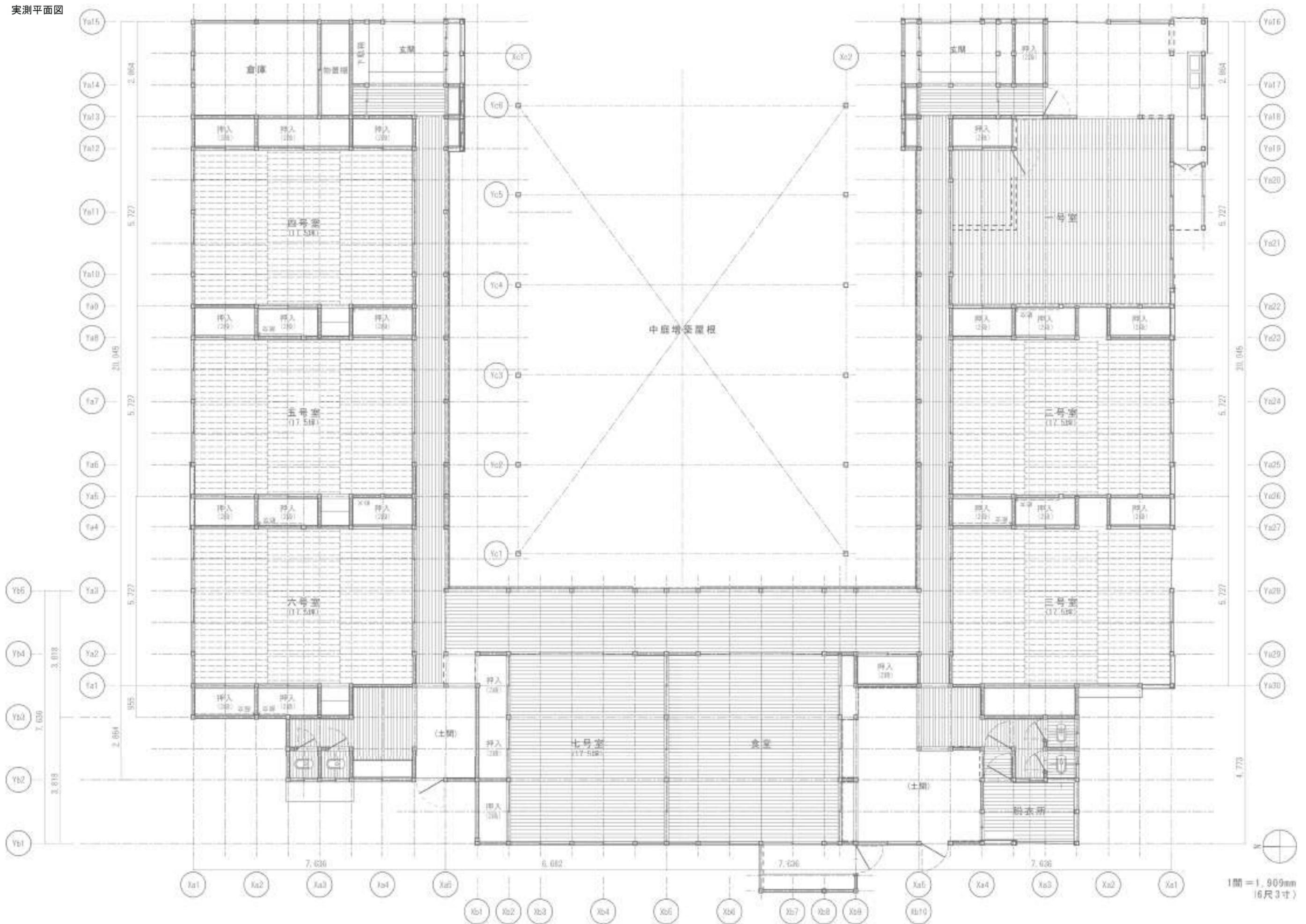


(2) 現況建物：コの字型平面



(3) さらなる増改築

実測平面図





はじめの段階では、幅広く比較検討することが重要。一般的に歴史的遺産の保活用上、必ずしも望ましいとされない案も含まれているが、「なぜふさわしくないのか」の議論も重要であることからあえて含めている。

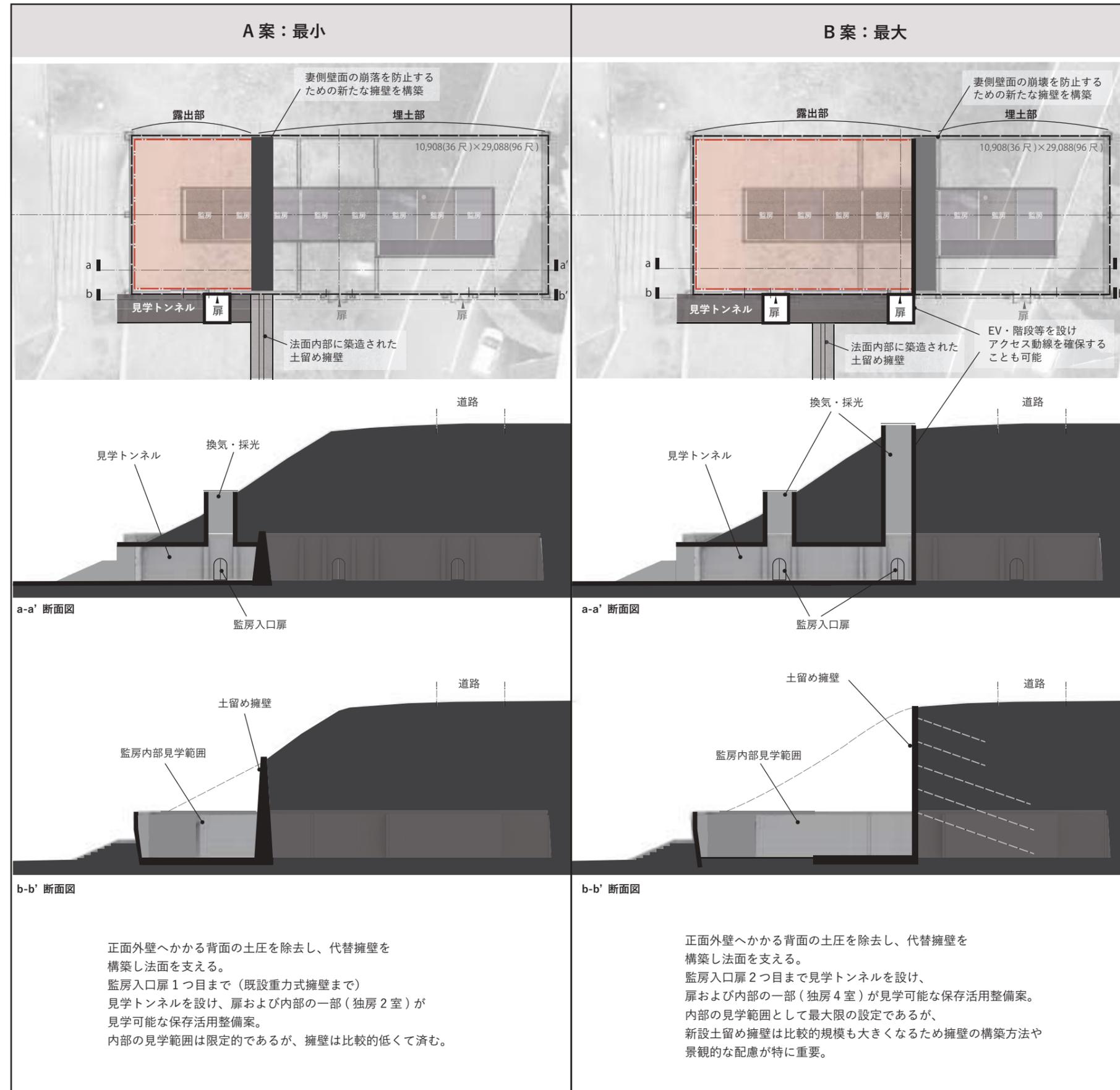
令和3年度に、より具体的に①遺構の価値や②全体の保活用ビジョン（世界遺産・史跡整備の考え方）、③景観へのインパクトなどを中心に比較検討し、ふさわしい方針を決定する。

本日の目的：案を絞り込むことではなく、検討の幅や比較検討の項目・視点として必要な事項についてご議論いただきたい。

比較案	保活用案 A	保活用案 B	保活用案 C	保活用案 D
内容	活用：劣化の原因となる外的要因から極力遮断する	当初の棧橋を復元する	活用：追体験可能な新たな棧橋を重ねる 保存：水中部は一度止水し、不等沈下および将来の崩落・劣化を抑制する（劣化を遅らせる）補強を講じる。	活用：追体験可能な新たな棧橋を脇に添える。 保存：水中部は一度止水し、不等沈下および将来の崩落・劣化を抑制する（劣化を遅らせる）補強を講じる。
各案略図				
特徴	現状を最も良く残すことができ、将来の劣化抑制となる案であるが、朽ち行く時の経過を止め、周囲の景観との断絶をまねくため、「生きた」遺産としては捉えがたくなる。	往時の姿を最もよく知ることができるが、棧橋が朽ち行く時の経過も含めたこの場所の歴史がリセットされる。	朽ち行く棧橋の歴史・時間経過をリセットせず、そのままに、本来の棧橋の動線をそのままに追体験が可能。既存遺構を主役に据えた簡素なデザインができるかがカギ	朽ち行く棧橋の歴史・時間経過をリセットせず、本来の棧橋の動線そのままではないが、展示動線として、既存遺構に直接重ならないよう新たな動線を設定可能。軸線の設定および既存遺構を主役に据えたデザインがカギ 形式：固定棧橋 or 浮橋 配置：後補棧橋に合わせる or 平行 etc... b a
イメージパース				
維持管理性	本日も議論いただいた内容をふまえ、令和3年度により具体的な保存方法や各案の比較検討を行い方針を決定したい。			
事業費				
施工性				
⋮				

はじめの段階では、幅広く比較検討することが重要。一般的に歴史的遺産の保存活用上、必ずしも望ましいとされない案も含まれているが、「なぜふさわしくないのか」の議論も重要であることからあえて含めている。
令和3年度に、より具体的に①遺構の価値や②全体の保存活用ビジョン（世界遺産・史跡整備の考え方）、③景観へのインパクトなどを中心に比較検討し、ふさわしい方針を決定する。

見学通路・内部見学範囲の比較検討



監房正面の保存活用素案比較検討

